



## 職業や働くこと、さらに人生について 理解を深める「キャリア開発D」

毎回さまざまな企業のトップを客員教授にお招きし、特別授業を開講。5月11日の講義では、愛知経営者協会や中部経済連合会で重責を担われた名古屋銀行取締役会長の加藤千麿先生に、ご自身の体験談や人生観、社会人として必要な心構えなどについてお話いただきました。

株式会社名古屋銀行 取締役会長  
**加藤 千麿氏**

“大企業のトップに学ぶキャリアの本当の意味”と題した「キャリア開発D」特別授業。5月11日には、客員教授である株式会社名古屋銀行取締役会長の加藤千麿氏をお迎えしました。

講義のテーマは「あなたたちに伝えたい私の人生観」。1938年に中国・大連で誕生した加藤先生は、終戦後ご家族とともに日本に引き揚げられ、戦後の田舎暮らしでさまざまな体験をされました。「環境変化の対応力は波瀾万丈の幼少時代に身についた」と加藤先生。「時流に流されず、いつの時代も自分の頭で考える人になってほしい」との心に残る言葉もお話されました。

祖先を敬う気持ちを大切にしてほしい、とのお話も。加藤先生がかつて火事にあわれた実体験から「私たちは神

様によって守られた」とお話されました。「徳を積めば必ず助けがある。自己責任を果たして徳を積み、また祖先を敬ってください」との言葉に、思わずうなずく学生の姿も見られました。

また加藤先生ご自身が出会った人々とのエピソードを交えながら「運の強い人とつながりを持つ、自分より優れている人と親しくする努力をすることが大切」とのお話も。さらに現在、ご自身も勉強されている「論語」の一部も引用されながら、人と人との出会いのすばらしさや前世からの因縁、運命についてもお話されました。

講義の最後に「銀行で女性社員に求められるものは？」との質問があり「男女問わず積極的に考えて動く人になってほしい。物事の裏まで考えられる人間になることが大切」と答えられ

た加藤先生。さらに「若い時にどんどん本を読んで、その知識を自分のものにしてください」とお話されました。「学生達がみな目を輝かせて聞き入ってくれる様子に感心しました」と加藤先生。学生達にとって大変有意義で貴重な講義となりました。

### 客員教授の先生方

社名	役職	氏名
株式会社三晃社	取締役会長	川村佛式氏
株式会社名古屋銀行	取締役会長	加藤千麿氏
盛田エンタプライズ株式会社	代表取締役会長	盛田和昭氏
リンナイ株式会社	代表取締役会長	内藤明人氏
株式会社トーエネック	取締役社長	野田泰弘氏
中部日本放送株式会社	代表取締役会長	夏目和良氏
株式会社名古屋観光ホテル	取締役社長	藤森源久氏
東海旅客鉄道株式会社	相談役	須田 寛氏
株式会社中日新聞社	代表取締役社長	大島寅夫氏
中部電力株式会社	代表取締役会長	川口文夫氏
東邦ガス株式会社	代表取締役社長	佐伯 卓氏

※講義日順

## 薬学部の高い国家試験合格率を支える教育施設が完成

2005年度に入学した薬学部1期生は、本年3月に実施された第94回薬剤師国家試験において、91.4%と全国平均(74.4%)を大幅に上回る高い合格率をマークしました。その高い合格率を支えたのが、1年次からの少人数・問題解決型教育システムです。

自分の考えを的確に伝える力、ま

た相手を理解する力や医療の現場で不可欠な問題解決能力を養う教育システムの効率的な運用のための施設がこの春、W7号館の1F部分を改修して完成しました。この施設の活用により、より高度な問題解決能力を備えた薬剤師の育成が期待されています。



## 2008年度卒業生の進路状況

# 難関私立大学に多数合格! 大学への内部推薦もますます充実

高校生の進路選択は年々多様になってきています。そのような中、本校では2年次からのコース制によって生徒が自分の適性や目的にあった進路を早めに選択し、その準備ができるよう指導しております。

2008年度の金城学院大学への進学者数は、内部推薦者156名に一般推薦・受験での進学者32名を加えて総勢188名(卒業生全体の54.6%)。ほとんどの生徒が自分の第一希望の学部・学科への進学を果

たすことができました。

外部受験コースでは、東京大学1名、東京外国語大学1名、名古屋大学5名、名古屋工業大学3名などの国公立大学のほかに、難関私立大学への合格者も増加。早稲田大学4名、慶應義塾大学6名、青山学院大学9名、立教大学10名、同志社大学13名、立命館大学28名、南山大学62名など実に多くの合格者を出すことができました(数字は浪人生を含みます)。

また2007年度から始まった「関西

国公立大	11
私立大	113
金城学院大	188
国公立短期大	0
私立短期大	2
専修・各種学校	3
就職	0
進学準備	26
その他(留学)	1
<b>卒業生総数</b>	<b>344</b>

学院大学との協定校推薦制度」でも7名の生徒が推薦され、関西学院大学の各学部へ進学をしています。

卒業生の今後ますますの活躍をお祈りしています。

## 心に響く詩と歌声に感動! 一篇の詩コンサート開催

昨年12月6日(土)、高等学校栄光館で一篇の詩コンサート(代表:児玉たまみさん)主催の「一篇の詩から生まれたコンサート〜金井りつさんへのオマージュ〜」が開催されました。

金井りつさんは元高等学校教員。一篇の詩コンサート代表の児玉さんは名古屋とパリを拠点として活動されるシャンソン歌手です。今回のコンサートは児玉さんが市内のレストランで偶然金井先生の「To Mother」と題

された一篇の詩に出会い、大変心を打たれたのがきっかけとなって開催される運びとなりました。

コンサートでは詩の朗読と歌、パイプオルガンの演奏などを公演。透き通る歌声と感動的な詩、美しいパイプオルガンの音色は参加した皆さんの心にも大きな感銘を与えてくれました。また後日、児玉さんから5万円の寄付金もいただきました。

## 全国大会で見事金賞! 高校バトン部

今年の1月24日、千葉・幕張メッセで「第36回マーチングバンド・バトントワーリング全国大会」が開催され高校バトン部が出場。バトントワーリング部門・高等学校の部(バトン編成)において、見事2年連続の金賞を受賞いたしました。

この栄誉を勝ち取った部員の皆さんの日頃の努力を心から讃えたいと思います。またバトン部を応援し、いろいろとご尽力いただいた多くの方々には厚く御礼申し上げます。

## より明るい教室に。 校舎改修計画

高校では今年度、夏休みを利用して校舎を改修します。より明るい教室になるように現在計画を進行中、生徒会にも協力していただき、色彩や掲示板の使途などに生徒達の意見を取り入れていく予定です。工事中は部活動をはじめ、多方面の方々にご迷惑をおかけすることと思っておりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

### TO MOTHER

Mother,  
I knew eternity by your death:  
It's not that you are not here forever,  
But that you died.  
I knew eternity by your death.

The fact that you died doesn't mean  
That you are not here.  
But means that you are here:  
You are here in me more closely than ever.  
Because without your death  
You couldn't have been reborn in me.

Mother,  
I've realized eternity by your death.



# Junior high school [中学校]

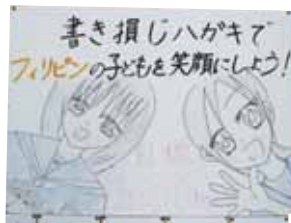
events on the school calendar

## フィリピンの子どもに笑顔を書き損じはがきを回収・寄付

昨年度、中学校ではNPO法人ICAN(アイキャン)主催の「Tuly Project-子どもが作る新しい地球のカタチ-」に参加し、1・3年生がDignityの時間にフィリピンの子どもにあてて絵手紙を書きました。また「フィリピンの子ども達を支援しよう」と書き損じはがきを集める運動を展開、約1ヶ月間で約1850枚の書き損じはがきが集まり、3月26日にICAN事務局長井川氏に手渡しました。

きっかけは昨年末に3年生(現高校1年生)の吉野あかりさんがICANの子ども使節団の一員としてフィリピンを訪れたことに始まります。吉野さんは現地でごみ処分場の近くで暮らす子ども達と交流。食べ物はもちろんのこと筆記用具すらまともに買えない現状を知り、さらには学校を無事に卒業できるかどうか難しいという話を聞き、大変驚きました。「そんな苦しい

生活やつらい過去にもかかわらず、フィリピンの子ども達はみんな明るく前向きだったのがとても心に残りました。あの子ども達のために何か役に立てれば、と思いました」と吉野さん。そこで帰国後、生徒会に書き損じはがきを集める運動を呼びかけ、全校で取り組むことになりました。



校内に回収箱を設置し、ポスターを掲示したり毎日校内放送を流したりしてはがきを収集。また教職員をはじめ、金城学院高校からも約300枚を集めて協力いただきました。同時期にフィリピンから届けられ



た絵手紙が校内に掲示されました。

書き損じはがきは換金され、ミンダナオ島の紛争地帯で苦しんでいる子ども達の学校建設のために使用されるとのことです。この活動を通してさまざまな環境に住んでいる子どもを知り、同じ世界の一員としてともに生きる一歩になったと感じます。

中学校では今年度も活動が続いています。皆様のご協力よろしくお願いたします。

## 卓越した読書量と文章表現力で感想文コンクール最優秀賞受賞

このたび中学校3年(現高校1年)の宮田知世子さんが「第54回青少年読書感想文名古屋市コンクール」で最優秀賞(名古屋市長賞)を見事受賞しました。宮田さんは今回、遠藤周作の「海と毒薬」を読み、「色のない風景」と自ら題した感想文で表彰を受け

ました。宮田さんはその他に、愛知県私学読書感想文コンクールで落合恵子「崖っぷちに立つあなたへ」を題材に最優秀賞(Ⅱ類)を受賞。校内の読書感想文コンクールでもすでに中学1・2年の時から優秀な成績を数多くおさめていま



す。宮田さんのジャンルを問わぬ幅広い読書量と卓越した文章表現力や構成力については、誰しもが認めるところです。今後の活躍がおいに期待されます。

## 恵愛館の一般教室を改修 明るく温かみのある空間に

中学校は今年度、「明るく・快適で、使いやすい空間」をコンセプトに恵愛館の一般教室を中心に改修します。教室の顔ともいえるドアデザインについては全校にアンケートを実施し決定。温かい木目調の扉に楕円の明かり採り窓、またクラス表示はスクールカ

ラーのエンジに金の文字を入れ、デザインのアクセントに。さらに廊下側の掲示板を外し、固定窓サッシにグラデーションフィルムを貼付。教室の明かりがもれて廊下も明るくなります。教室の後ろにあるロッカーも、整理整頓がしやすいように聖書棚やコート掛

け、生徒用個人ロッカーなど用途別に設置。さらにロッカーはキャスト付きで、裏面は全て掲示板として活用できるようにします。

明るく温かみのある空間は生徒達の学習の場・生活の場として今まで以上に活かされることでしょう。

## 春の味覚に感謝「たけのこ掘り」

2009年度の保育が4月8日始業礼拝から始まり、4月13日の入園式には53名の園児を迎え149名の保育がスタートしました。3・4・5歳児混合クラスの縦割り保育を行っているため、まず在園児が新しいクラスの友だちや担任と馴染むようにとの願いから、4・5歳児のみの保育を数日おこなっています。

毎年この時期に、駐車場の竹藪へ筍掘りに出かけます。スコップを使いみんなで筍を囲み、砂場用のトロッコ

に2杯も掘りました。その日のうちに茹でて、次の日だしと醤油とで煮付け、削り鰹をまがして『おやつ』として頂きました。「お母さんにも食べてほしい」との子どもからの声に応え、降園時にお母様方へもサービス。春の味覚をみんなで感謝して頂きました。



## 「いつまでも大切にして使えるように」と行われた園庭ワーク



4月11日(土)少し動くとき汗ばむような陽気でしたが、園児と家族、卒園児、保育者、100名近くで、今年度1回目の園庭ワークが行われました。

今回はロープワーク(モンキーブ

リッチの調整やブランコのロープ取り替えなど)、溝掃除、砂場、平場の整備を中心に行いました。

毎回参加の親子、入園して初めて



参加の親子、1年生になったばかりの卒園生、いろいろな顔ぶれ

に出会い、楽しくおしゃべりしながらの作業です。身体をつかってワークした後の、お茶とおやつのゼリーが特別においしかったようです。

自分たちがいつも遊んでいる園庭が、たくさんの人によって作られ、守られてきたことに気づき大切にしてゆくこと、卒園してもまた遊びに行きたいと思ってくれる場としての園庭を、と願って今年度も4回の園庭ワークを計画しています。

## 「でた! 宇宙人だ!」

大学構内の雑木林に入りこみ遊び子ども達は、現実と想像の世界を行き来しています。今年2月、生活環境学部の柳谷勝先生・河原利江先生と学生の方が考案・設計して下さり、大学の第三学生駐車場北側にツリーハウスが作られました。子ども達にツリーハウスを紹介したところ、どの子も気



に入ったようで「ねえ、ツリーハウスに行こうよ〜」「今度はいつ行く?」と誘いにきてくれます。つい先日も年長児45名と遊びに行ってきました。丁度、伐採された竹が半分に割られていたことで、(ピン!!)ときたようです。竹をつなげて「流しそうめんしてるの〜」とごっこ遊びが始まりました。又、竹が切られた跡地では、その切られた竹から竹へ跳び移り、「修行だ!」と言っています。TVアニメのヒーローになりきっていました。少し、奥の方に入っていた子ども達は、大きな丸い筒を見つけ、「宇宙人がお昼に隠れている場所だ」「夜になると、ここに宇宙船が来るよ」と話しています。

幼稚園に帰る時、偶然にもツリーハ

ウス周辺を散策していた学生数人の足だけが、ツリーハウスを間にして反対側に見えました。子ども達は「宇宙人だ!」「出た!」「本当に居た!」と大喜びです。実体験に基づいた事柄からイ



メージや空想の世界まで、ツリーハウスを拠点

とした雑木林での遊びが広がってきています。これから子ども達が、どんな想像を膨らませ遊んでいくのか…とても楽しみです。今後も活用させて頂こうと考えています。